



令和7年度

町勢要覧

群馬県

下仁田町

本編

発刊のごあいさつ



「ねぎとこんにやく 下仁田名産」と郷土かるたで謳^{うた}われる下仁田町は、関東平野の最西端に位置し、かつては中山道^{なかせんどう}の脇往還^{わきおうかん}「下仁田道」の宿場として栄え、今もなお当時の面影を町の随所で垣間見ることができる地域です。

町名を冠した「下仁田ねぎ」は地域ブランドの先駆けとなり、全国的にも知名度が高く、ふるさと納税の返礼品や贈答品として全国各地でご好評をいただいております。

また、当地で明治期より栄えたこんにやく製粉業も地域を牽引する産業の大きな柱で、現在でも全国に流通するこんにやく粉の多くは町内加工業者の製造によるものです。

しかしながら、日本国内のこんにやく消費量は、食生活の変化とともに減少傾向にあり、これらに対応すべく、町は令和7年日本初のこんにやく消費に特化した「こんにやく食べよう健康増進条例」を制定し、消費拡大に向け各種施策に取り組んでいるところです。

さらに、本年は下仁田駅隣接に「街なか活性化拠点施設」を整備し、交流人口の増加と回遊性確保に向け努めているところです。

このような多種多様な事業展開の基礎となりうるものは、統計データであり、産業構造のあり方にあります。

この『町勢要覧』は、町の人口・産業をはじめとする各分野の情報を一元的に取りまとめ、下仁田町の情勢を一目で把握することができる資料として、様々な場面でご活用いただけるものと認識しております。

本書をご覧いただくことで、これまでの軌跡をご確認いただき、これからの未来をどのように捉えるかを考えていただく機会となれば幸いに存じます。

下仁田町長
若崎正春

下仁田ジオパーク



大地の変動が残した宝箱

～ネギとコンニャクを育む川と台地

2011年9月に日本ジオパーク委員会に認められたことにより、下仁田町は町の全域が日本ジオパークに認定されています。



ジオパークの拠点展示施設「下仁田町自然史館」（登録博物館）

下仁田ジオパークには、海から陸へ隆起した山々や古い火山が作り出した独特の山並みなど、町全域に地球の記憶が隠れています。「世界遺産 荒船風穴」をはじめとする自然を活かした産業の遺産や昭和レトロな町並みもあり、先人たちが大地とともに暮らしてきた歴史もあります。

下仁田ジオパークでは

- ①“根なし山”をつくった海から陸への大変動
- ②太平洋と日本海を分けた古い火山地帯
- ③東西文化とモノの交差点

という3つのテーマに沿って地域の資源を整理し、それらは郷土学習、防災（減災）教育やガイドツーリズム、地場産業の推進などに活用されています。

①“根なし山”をつくった海から陸への大変動



青岩公園

②太平洋と日本海を分けた古い火山地帯



妙義山

③東西の文化とモノの交差点



本宿（宿場町）

「住民が地域に郷土に誇りを持ち、一人一人が自信を持って郷土の魅力を発信し交流人口が増え、住民同士の繋がりがより強固になる。」
こうした町づくりを目指してジオパーク推進に取り組んでいます。

下仁田の水と緑を歩こう①

～荒船山～

起伏に富む上信国境の山並みの中に、独特の姿を浮かべる荒船山。悠然としたその山容は、大海に乗り出す船のよう。

荒船山は、下仁田町の西部、長野県境にあり、南北に約2キロメートル、東西約400メートルの巨大な溶岩台地です。平坦な頂上部が続く山容が、荒波を蹴って進む船を思わせることからその名がつけられたと言われ、一昔前までは、雨乞いの山として下仁田の人々の信仰を集めていました。



秋の荒船山

登山ルートはバラエティーに富み、比較的手軽に登れることから、春から秋にかけて多くの登山者が訪れます。一般的な登山ルートとして人気があるのが、内山峠からともいわ 鱸岩を目指すルートです。荒船山北端にそびえる鱸岩は、高さ約200メートルの岩壁が垂直に切れ落ちていて、ここから望む景色は絶景です。優美な浅間山や急峻な妙義山が眼前に迫り、遠く北アルプスの山並みも望むことができます。



ひょうぼく
相沢奥壁氷瀑

頂上一帯は、笹原に覆われ、そこから最高地点のきょうづかやま 経塚山（標高1,422メートル）にかけて平坦な道が続きます。経塚山にはほこら 祠があり、その昔、弘法大師が経塚（きょうもん 経文を埋めた塚）を作ったという伝説が残っています。

荒々しい岩壁と優美な笹原で動と静の魅力にあふれる荒船山は、西上州の名山として愛されています。

下仁田の水と緑を歩こう②

～妙義山～

険しい岩肌と柔らかな木々の調和。自然が作り上げた壮大な造形美。奇岩の連なりが、息をのむ迫力です。



妙義山（表妙義）

九州の耶馬溪やばけい、四国の寒霞溪かんかけいとともに、妙義山は有名な日本三奇勝の1つに数えられています。その峰々が作り出す四季折々の美しい表情に、人々は魅了されます。妙義山は1つの山を指す訳ではなく、白雲山はくうんざん（白雲山相馬岳、標高こん1,104メートル）を最高地点とし、金洞山どうざん、金鷄山きんけいざんなどからなる南側の「表妙義」と、谷急山やきゅうやま（標高1,162メートル）、御岳おんたけ、丁須ちようずの頭かしらを擁する北側の「裏妙義」の山々一帯を指します。

なかでも下仁田側から眺望できる金洞山や、それを構成する中ノ岳は昔から下仁田町民に親しまれてきました。奇岩がいたる所に見られる妙義山の中でも、この金洞山の景色は圧巻とされます。中腹をめぐる第一石門から第四石門をはじめ、ロウソク岩ろうそくいわ、大砲岩たいほういわ、筆頭岩ひつとういわ、ユルギ岩ゆるぎいわ、虚無僧岩こむそういわといったユニークな名前をつけられた特徴ある岩石群は、日本屈指の山岳美としてたたえられています。

加えて、第四石門から見える「日暮らしの景」は、一帯の風景を一日見ても飽きないと言われるほどです。春には、麓にある「さくらの里」に植えられた4,000本もの桜が、春霞のように辺りを覆いつくします。また、秋には紅葉狩りに訪れる人でもにぎわいます。

これらの石門、石群を巡るコースは、中之嶽神社なかのたけが起点となっています。中之嶽神社は古くから妙義山信仰の拠点となった由緒ある神社で、日本武尊やまとたけるのみことと大国主命おおくにぬしのみことが祀られています。



日暮らしの景

下仁田の水と緑を歩こう③

こうづ ～神津牧場～

広大な空を気ままな旅人のように流れる雲。
大空の下には、のんびりと草を食む牛の群れ…。
おいしい空気がいっぱい。

長野県境の物見山ものみやま東斜面に広がる神津牧場は、明治20年に開設された、日本で最古の西洋式牧場です。標高1,000メートル、敷地387ヘクタールの広大な敷地に、約150頭のジャージー牛が放牧されています。牧場体験、動物とのふれあいなど、家族連れで楽しめるレジャースポットとなっています。



神津牧場全景



ジャージー牛の行進

神津牧場の春は平地より遅く、5月下旬が最も彩り鮮やかとなる季節です。桜をはじめとした花々が咲き、毎年第3日曜日には花祭りも開かれます。花の中を牛の群れがゆっくりと通り過ぎていく様子は、いかにも牧歌的といった様子です。また、オオルリ、カッコウ、リスやキツネなどの野生動物も多く、牧舎裏手の丘からは、浅間山、妙義山をはじめ周辺の山々を一望することができます。

周辺を散策して心地よい汗をかいたら、ジャージー牛の搾りたての牛乳やソフトクリームでリフレッシュ。茶色の毛並みのジャージー種は、ホルスタイン種より脂肪含有量の高い乳が得られ、おいしさは満点。

親水護岸や宿泊施設も整えられ、研修、レジャーと町内外の人々に幅広く活用されています。

下仁田町の文化財

～町の文化財を大切に守り、 後世へと伝えていく～

下仁田町には国指定史跡が1件、県指定史跡が1件、そして町指定文化財が26件あります。それぞれ時代にあった生活の中から生まれ育ってきた文化、その遺産こそが文化財です。

貴重な文化財、文化遺産は大切に保護し、後世へと受け継いでいく必要があります。指定文化財を訪れる愛好者や町民に分かりやすく解説し、愛護を訴えるため、説明板の設置も行っております。



荒船風穴



中小坂鉄山製 鑄鉄大火鉢

町指定文化財であった荒船風穴については、中之条町の東谷風穴と共に、平成22年2月22日付で官報告示され、「荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡」として国指定史跡となりました。そして平成26年6月25日付で「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産として、世界文化遺産登録となりました。

また、荒船風穴蚕種貯蔵所の経営母体である「春秋館」も、令和3年3月26日に国指定史跡に追加指定されています。

種別	名称
町指定史跡	清水沢の百庚申
町指定史跡	西牧関所跡(藤井関所)
町指定史跡	中小坂鉄山・製鉄所跡
町指定史跡	初鳥屋の八十八箇所霊場
町指定史跡	下仁田戦争跡(高崎藩士戦死の碑)
町指定史跡	下仁田戦争跡(義烈千秋)烈士の弔魂碑
町指定史跡	下仁田戦争跡(久保田藤吉・齋藤仲次の墓)
町指定史跡	下仁田戦争跡(野村丑之助の墓・義烈照千古の碑)
町指定史跡	下仁田戦争跡(大曾根茂蔵の墓)
町指定史跡	伊勢山下の百庚申
町指定史跡	虻田の百庚申
町指定天然記念物	諏訪神社殿の樺
町指定重要文化財	安楽地の板碑
町指定重要文化財	長楽寺の釈迦如来座像
町指定重要文化財	阿唱念の不動尊
町指定重要文化財	小河原の五輪塔
町指定重要文化財	赤谷の宝篋印塔三基
町指定重要文化財	諏訪神社殿の彫刻
町指定重要文化財	清泉寺の梵鐘
町指定重要文化財	伏見山十一面観音
町指定重要文化財	空居上人筆般若心経の碑
町指定重要文化財	永寿寺の芭蕉句碑
町指定重要文化財	中小坂鉄山製 鑄鉄大火鉢
町指定重要文化財	高橋道齋せん井書による長清道士之碑
町指定重要文化財	清泉寺の宝篋印塔
町指定重要文化財	旧上野鉄道 鬼ヶ沢橋梁
町指定重要文化財	春秋館文書
町指定重要文化財	下鎌田・杣瀬遺跡出土品
町指定重要文化財	初鳥屋遺跡出土の石棒
町指定天然記念物	桑本のザゼンソウ群生地
県指定史跡	高橋道齋の墓
国指定史跡・世界文化遺産	荒船風穴蚕種貯蔵所跡(荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡)
国指定史跡	春秋館跡(荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡)

下仁田町の文化財一覧

～歴史の証を未来へ～

下仁田町の歴史をたどると、旧石器時代から人々の暮らしが営われていたことが分かります。上信越自動車道の建設に伴って発掘された下鎌田遺跡や杣瀬遺跡をはじめ、鐮川流域には、原始・古代の遺構がたくさん残されています。

中世の遺物としては、板碑など数多くの石造物が発見されています。また、戦国期の遺構として、鷹の巣城、西牧城など13の城跡も見られます。



高崎藩士戦死の碑
(勝海舟書)

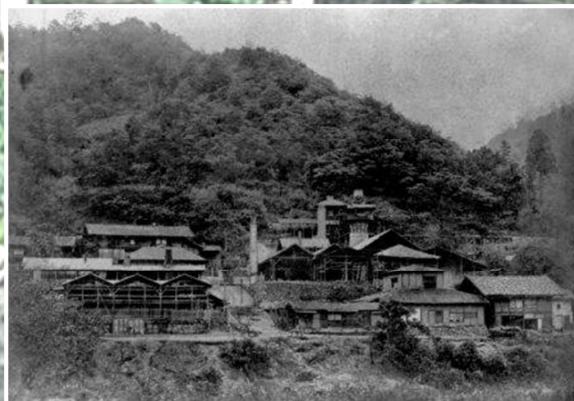
近世には、鐮川筋を中山道の脇往還が通り西牧関所が置かれました。この道は下仁田道とも呼ばれ、信州佐久からの米の輸送路でした。米の他には麻、砥石、絹、楮（和紙の原料となる低木）などが運ばれ、信州と上州の交易地として下仁田町は重要な役割を果たしていました。

また、幕末に起こった下仁田戦争は、下仁田を主戦場に水戸浪士（天狗党）と高崎藩が戦った事件で、弾痕の残る土蔵や犠牲者の墓などが往時の出来事を今に伝えています。

明治30年になると、高崎一下仁田間に開通した軽便鉄道である「上野鉄道」は鐮川流域の経済発展に欠かせない交通手段と物流の要として利用されました。

この頃は下仁田町で「官営中小坂鉄山」が、日本初の蒸気機関による熱風送風を備えた木炭高炉で操業を始め、養蚕製糸業も盛んに行われた時代です。上野鉄道は生糸・繭・石炭・砥石・鉄鉱石などの輸送といった、下仁田町の繁栄になくてはならない役割を担っていました。大正10年に現在の上信電鉄に社名を変更した後も、大正13年の電化まで上野鉄道は下仁田に大きく貢献し続けました。

悠久の歴史を誇る下仁田町には、人々の暮らしや信仰に基づくさまざまな歴史の証が残されています。また、歴史をたどることで町内や鐮川流域の自然資源を利用して生活してきた先人の知恵や苦労を窺い知ることができます。先人の遺産として大切に次の時代へ引き継いでいきたいものです。



明治期の製鉄所

下仁田町の特産物

下仁田の美しい水と緑は、様々な特産品を生み出してきました。中でも、下仁田ブランドとして全国的に名をとどろかせているのが、ねぎとこんにゃく。
下仁田といえば「ねぎとこんにゃく」というほどイメージが定着しています。
その他にも、しいたけなど、豊かな自然の恵みを受けた下仁田の物産はどれも全国に誇れる逸品揃いです。

～天下一の下仁田ねぎ～



下仁田ねぎ

下仁田ねぎは、江戸期以来珍重されてきた下仁田の特産品です。日本のねぎの中でも白根が太く大きいのが特徴で、煮ると短時間でやわらかくなり、そのとろけるような甘さと舌触りは絶品。この独特な風味は、先人達の努力によって誕生しました。

長野県と群馬県農業試験場で栽培を行ったところ上手く育成せず、粘土質が強く礫を含んだ当地域の土壌や気象条件により、良質な下仁田ねぎが生産されると考えられます。

まさに下仁田ならではのブランド品といえるでしょう。

～豊富な林産資源から、しいたけ・杉材～

下仁田はしいたけの産地としても有名です。豊富な林産資源と最適な環境を生かして生産される下仁田のしいたけは、肉厚で品質がよく、贈り物としてもたいへん喜ばれています。

町の8割以上を山や谷に囲まれた下仁田は、製材業も盛んです。下仁田産の杉材は、高品質の建築材料として知られ、住宅をはじめ多方面の建築物に広く使われています。



特産品 しいたけ

～歴史を誇る下仁田こんにゃく～



こんにゃくいも

こんにゃくは、永正2年(1505)に、おおひなたむら大日向村の茂木家が紀州から群馬県へ持ち込んだと伝えられています。明治22年に下仁田の森沢川にこんにゃく製粉用の水車が設置されたことで町内でもこんにゃくいもの栽培が盛んになり、明治26年以降急速に栽培が拡大し、下仁田こんにゃくが全国の市場に出回るようになりました。現在は、町外への出耕作が主流ではありますが、製粉業は盛んに行われています。

こんにゃくは鍋物のほか、味噌田楽、おでん、刺身などに広く用いられる食材ですが、近年ではゼリーなど菓子類や食パン等にも加工され、おいしくてダイエットにも効果があるということで、人気を博しています。

その一方で近年こんにゃくの消費量が低迷の一途を辿っていることを受け、下仁田町では令和7年に「下仁田町こんにゃく食べよう健康増進条例」を制定し、町を挙げてこんにゃくの消費拡大に努めています。



さまざまなこんにゃく製品

～自慢の下仁田ブランド～



下仁田かつ井

その他にも下仁田の特産品としては、下仁田の土を活かした気品ある上州下仁田焼や、ジャージー種特有の濃厚な味と香りを持つ神津牧場自慢の乳製品などがあります。

また、大正時代からの伝統の味を受け継ぐ「下仁田かつ井」も有名で、揚げたての「かつ」をサッと醤油だれにくぐらせた、甘辛い味が特徴です。町内の各店舗でかつ井スタンプラリーも実施されており、それぞれのお店こだわりのかつ井を楽しむことができます。

下仁田町の花

～豊かな自然が語りかけてきます～

あぶだ 虻田福寿草の里

福寿草の里は下仁田町大字中小坂の虻田地区にあり、古くから福寿草の自生地でした。平成13年から虻田地区住民有志により福寿草の株分けが行われ、遊歩道や四阿を整備するなど大切に育てられてきました。

2月中旬から3月下旬にかけて、1.5ヘクタールの山里の斜面一面に黄色い福寿草の花が、さらにその上には1,000本もの薄紅色の紅梅も咲き誇り、華やかな春の訪れを知らせてくれます。



福寿草と紅梅

さくらの里



八重桜と妙義山

さくらの里は、妙義山の南面山麓に広がる斜面一帯に位置しています。約47ヘクタールもの広大な園内には歩道や四阿が整備されているほか、野外ステージも設置されています。

園内には、ソメイヨシノのほか、カンザン、フゲンゾウなどの八重桜など約45種4,000本の多種多様な桜が植えられています。それぞれの桜で咲く時期が異なり、4月上旬から4月下旬までの長い期間桜を楽しむことができます。

雄大な妙義山と桜のコントラストは圧巻です。

別園時間
午前八時三十分
閉園時
午後五時
〇〇分

あじさい園

下仁田町の東の玄関口である馬山地区にて、平成16年度から町が中心となり、あじさいの苗木の植栽に着手。それを引き継ぐ形で、地域有志を中心に「紫陽花を育てる会」が発足し、保育、管理を行っています。

あじさい約20,000本、サルスベリ約1,200本を有し、群馬県を代表するあじさい園であるとともに、関東でも有数の規模を持つあじさい園であり、毎年多くの人々が園内を訪れます。

あじさい園内は河岸段丘の斜面に位置し、国道からは一面に広がる彩り豊かな花を、園内からも西上州の山々を一望することができます。



あじさい園と四ツ又山

姫街道もみじライン

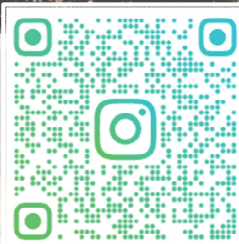


もみじラインの紅葉

下仁田町本宿から軽井沢町へと続く県道下仁田軽井沢線、この区間は通称姫街道もみじラインと呼ばれます。10キロメートルにわたる街道沿いが2,000本のもみじで真っ赤に染まり、県内外から多くの観光客が訪れます。

「もみじライン推進協議会」を中心に地域の方々の協力により整備された姫街道もみじラインは、秋になると赤や黄色に色づき、今なおここを通る多くの人を楽しませています。

あぶだ福寿草の里、さくらの里、あじさい園、姫街道もみじラインそれぞれの季節に合わせ、現地の開花状況や紅葉状況は下仁田町商工観光課が公式 Instagram にて発信しております。



NIYAKUTSUCHI

下仁田町のあゆみ

昭和30年～昭和47年 5町村が合併、現在の下仁田町となる

昭和30年	3.1	旧下仁田町、馬山村、西牧村、小坂村、青倉村が合併、現在の下仁田町となる
	4.15	町長当選（千野孫十郎）
昭和33年	5	和美峠に自動車道開通
	11	常備消防発足
	11.15	下仁田酪農協同組合設立
昭和35年	4	下仁田町商工会新発足
昭和36年	3.25	町長改選（竹内欽之助）
	11.2	下仁田町観光協会設立
昭和37年	8.1	救急活動始まる
昭和39年	4.3	町長改選（赤岩寿雄）
	9.28	町営ガス事業が開始
昭和40年	4	下仁田小学校給食調理場を下仁田町学校給食共同調理場化
		林業構造改善事業第一次指定
昭和41年	4	下仁田・馬山・小坂・青倉中学校が統合し、下仁田東中学校となる
		東中学校の統合に合わせ、西牧中学校が下仁田西中学校となる
	6.11	財団法人下仁田町開発協会設立
昭和42年	4.1	下仁田電報電話局開局
昭和43年	9.1	町長改選（中村栄一）
		農業構造改善事業開始
昭和44年	4.1	妙義荒船佐久高原国定公園指定
	8.5	下仁田町産業振興委員会発足
昭和45年	6	下仁田町中央公民館完成
	10.21	緑ヶ丘住宅団地完成
昭和46年	3.31	ゴミ焼却場新設
	4.25	町長改選（今井七五三次）
		富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合設立
	11.3	下仁田町史編纂発行
昭和47年	3.31	妙義有料道路開通
	3	下仁田町総合計画策定
	4.1	常備消防広域化
	5.3	下仁田町町章制定規則が制定され、公式に下仁田町の町章が決定
	10.3	農業振興地域指定



旧東野牧小学校



旧小坂小学校

昭和48年～昭和60年 文化施設や生活環境の整備が進む

昭和49年	4.1	甘楽西部環境衛生施設組合設立
	4.27	青倉児童館完成
	6.11	西部社会福祉センターがオープン
昭和50年	4.27	町長改選（神戸半三）
昭和52年		ひょう害により、こんにゃく価格が大暴落
昭和53年	1.1	下仁田厚生病院公立となる
	12.15	本宿診療所完成
		町営住宅しらかば団地完成
	7.13	農村定住事業指定
9	馬山小学校校舎完成	
昭和55年	3.25	ふるさとセンター完成
昭和56年	3.14	下仁田幼稚園舎完成
	3	土谷沢分校閉校
	7.19	町営宿泊施設栗山荘オープン
	10.29	東部大橋開通
	10	下小坂大橋完成
昭和57年	2.1	西牧小学校新校舎完成
	4.8	町営バス運行開始（青倉・馬山）
	5	第三期山村振興事業認定
	6.19	上水道第五次拡張事業完成
昭和58年	3	下仁田町学校給食共同調理場落成
		町営住宅吉崎団地完成
	4.1	さくらの里オープン
	4.24	町長改選（青木茂雄）
	4	下仁田消防署完成
	7.15	新林業構造改善事業認定
12.1	西牧多目的集会所完成	
昭和59年	8.7	不通橋完成
	11.28	新農村定住事業指定
昭和60年	1.24	代行林道中之岳線完成
	3	小坂小学校校舎落成
	3.3	町営吉崎テニスコート完成
	4.1	小坂三小学校統合
	10.12	下仁田町の花（桜）、木（杉）、鳥（うぐいす）指定。
		下仁田町民憲章制定
	下仁田警察署完成	



さくらの里



町の鳥：ウグイス

昭和61年～平成11年 上信越自動車道開通、交通網が整備

昭和61年	2.25	かぶら保育園完成
	3.25	ゴミ焼却場（焼却炉棟）完成
	3.3	町長改選（小井土潑太郎）
	3.31	妙義有料道路無料開放（上小坂四ツ家妙義線）
	4.1	西牧三小学校統合
	5.1	さくらの里きのご館開所
昭和62年	4.24	下仁田町文化ホール完成
昭和63年	3.19	町営住宅東団地完成
	10	幼児健診でむし歯予防のためのフッ素塗布開始
平成元年	8.9	国道254号内山道路全線開通
平成2年	4.1	防災行政無線を導入
	5.23	もみじライン植栽開始
	6	青倉小学校新校舎落成
	9.2	サン・スポーツランド下仁田完成
平成3年	10.1	町営バス運行開始（小坂・西牧）
平成4年	3.3	林業総合センター完成
	10.16	国道254号馬山バイパス開通
平成5年	3.27	上信越自動車道（藤岡～佐久間）開通
	3.3	下小坂グラウンド完成
	3	道平川ダム完成（荒船湖）
		保育園でのむし歯予防のための集団フッ素洗口開始
平成6年	3.3	町長改選（神戸文夫）
	5.24	ふれあいセンター完成
平成7年	11.7	火葬場火葬炉全面改修
平成8年	2	下仁田南牧クリーンセンター完成
	10.8	老人保健法による保健事業推進に対し表彰される（厚生大臣）
	11	下仁田町活性化センター完成
平成9年	8.3	西下仁田温泉荒船の湯営業開始
平成10年	4.23	新合之瀬橋開通
平成11年	3	林道御場山線完成
	4.25	林道奥山六車線西平橋完成
	5.1	上信越自動車道八風山トンネル貫通
	6.5	下仁田町自然史館開館（下仁田町自然学校活動を始める）
	9	下仁田駅が「関東の駅百選」に選定



下仁田 I C



姫街道もみじライン

平成12年～平成22年 道の駅しもにた、ほたる山オープン

平成12年	2	小中学生対象にむし歯予防のための家庭でのフッ素洗口開始
	3.2	矢川コミュニティセンター（下仁田町矢川友愛館）完成
	5.1	上水道宮畑浄水場完成、上馬山・馬山東部・杣瀬の各簡易水道が上水道に統合
平成13年	2.1	ゴミ分別収集開始
	3.27	平成橋開通
	3	最終処分場「クリーンポケット」完成
	4.1	ほたる山公園オープン
平成14年	3	ゴミ焼却場全面改修
	3.3	町長改選（金井康行）
	12.5	第12回群馬県歯科保健大会において歯科保健賞受賞（（社）群馬県歯科医師会会長）
	12.16	新明治橋開通
平成15年	3	資源化施設「リサイクルセンター」完成
	10.1	高崎商科大学と観光事業の活性化に向けた包括連携協定締結
	12.6	道の駅「しもにた」オープン
	12	下仁田中学校校舎落成 上信越自動車道Ⅱ期線工事完成
平成16年	4.1	東中学校と西中学校が統合し、下仁田中学校として開校
	4.1	地域インターネット整備事業
	12.5	町長改選（岡田常夫）
平成17年	7.24	むし歯予防のためのフロリデーション(水道水フッ素濃度適正化) モデル装置完成
平成19年	1.3	「富岡製糸場と絹産業遺産群」に「荒船風穴」「上野鉄道関連施設（鬼ヶ沢橋梁・下仁田倉庫（株）赤レンガ倉庫）」が世界遺産暫定リストに登載
	7.21	「こんにゃく手作り体験道場」完成、使用開始
平成20年	12.5	町長改選（金井康行）
平成21年	4.1	青倉小学校が下仁田小学校に編入統合
平成22年	1.1	ジオパーク下仁田協議会発足
	2.22	「荒船風穴」が東谷風穴と共に国指定史跡として指定
	3.31	かぶら保育園閉園
	4.1	旧青倉小学校公社に下仁田町自然史館が移転し、ジオパーク推進室が置かれる
		「ふれあい学習センター」の名称を「下仁田町公民館」に変更
	6.19	あじさい園開設
	11.2	下仁田町自然史館展示室オープン
	11.24	東京都練馬区と災害時応援協定を締結



下仁田あじさい園



道の駅しもにた

平成 23 年～平成 2 9 年 下仁田ジオパークが日本ジオパークに認定、

荒船風穴が世界遺産に登録される

平成23年	3.28	馬山多目的運動場「馬山多目的グラウンド」落成
	9.5	日本ジオパーク委員会において「下仁田ジオパーク」認定
	9.29	『第2回日本ジオパーク全国大会2011洞爺湖有珠山大会』で日本ジオパーク認定証を受領
	10.7	下仁田葱の日を11(いい)月23(ふうみ)日(祝)と制定
平成24年	3.31	町立下仁田保育園閉園
	4.1	下仁田、馬山、小坂、西牧の各小学校が統合し、下仁田小学校として開校
	4.1	郷土学習 下仁田学習スタート
平成26年	6.25	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして荒船風穴が世界遺産登録
	8.12	道の駅しもにたにて観光案内所がオープン
	11.22	金剛萱(こんごうがや)遺跡にて、局部磨製石斧発見
平成27年	4.1	ふるさとセンターが「下仁田町歴史館」へ改称
	4.1	町営の簡易水道及び小水道と上水道が統合
	7.13	毎月20日を下仁田ジオパークの日(ジオの日)に指定
平成28年	1.28	「道の駅しもにた」が重点道の駅として選定される
	1.29	日本ジオパーク委員会において「下仁田ジオパーク」条件付き再認定
	3.31	下仁田町自然史館研究報告 創刊
	5	群馬県の石に西牧鉱山の「鶏冠石(けいかんせき)」が選定される
	11.2	『日本ジオパーク関東大会in下仁田』開催(11/20～21)
	12.5	町長改選(原秀男)
平成29年	4.1	「ねぎとこんにゃく下仁田奨学金制度」が始まる
	4	下仁田町学校給食センター開所
		南牧村から学校給食に係る事務委託開始
	8.27	公民館事業として「下仁田学」が始まる
	12	道の駅「しもにた」新販売施設建築及び既存施設改修
12.22	日本ジオパーク委員会において「下仁田ジオパーク」再認定	



下仁田ジオパーク



荒船風穴

平成30年～令和7年 春秋館跡が国指定史跡に追加指定、

こんにやく食べよう健康増進条例が制定

平成30年	2	「チャレンジ交流拠点しもにた」としてチャレンジショップ、テレワークオフィス完成
	3	下仁田町交流防災ステーション完成
平成31年 令和元年	3	まちなかマルシェ広場完成
	3.31	民間企業へガス事業を譲渡
	9.3	荒船の湯閉館
令和2年	3	旧荒船の湯 民間企業に譲渡
	6.2	下鎌田遺跡から発掘された「玦状(けつじょう)耳飾」が、アジアからの渡来品として国内初確認
令和3年	3.17	下仁田町自然史館が登録博物館に認定される
	3.26	「春秋館跡(荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡)」が国指定史跡に追加指定
	3.31	西牧防災広場、西牧防災研修施設完成
	6.28	4市町村(富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町)で「甘楽富岡地域定住自立圏形成協定」締結
		兜岩層の化石から日本初のホタル化石が見つかる
令和4年	1.28	日本ジオパーク委員会において「下仁田ジオパーク」再認定
	7.7	しもにた5つのゼロ宣言、東海ガス(株)と「ゼロカーボンシティ実現に向けての連携協定」締結
	12	馬山生活センター完成
令和5年	7.22	中小坂鉄山の鉱床が日本では特異的な成因を持つことが明らかになる
令和6年	12.5	町長改選(岩崎正春)
令和7年	5.14	道の駅しもにたが「防災道の駅」に選定される
	6.1	4市町村(富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町)で「富岡市甘楽郡地域一般廃棄物処理施設広域化に係る基本合意書」締結
	6.12	「下仁田町こんにやく食べよう健康増進条例」制定



下仁田町給食センター



テレワークオフィス

令和8年3月31日

令和7年度
下仁田町町勢要覧 本編

発行：下仁田町

編集：下仁田町商工観光課

〒370-2601 群馬県甘楽郡下仁田町大字下仁田682番地

TEL：0274-82-2111（代表） 0274-64-8805（商工観光課）

FAX：0274-82-5766

下仁田町公式ホームページ

<https://www.town.shimonita.lg.jp/index.html>

